

平成 28 年度 海士町社会福祉協議会 事業計画

テーマ「暮らしを学び 暮らしを支える」

総合方針

○総合事業移行への準備

平成 29 年 4 月から介護保険制度の改正により訪問介護事業と通所介護事業の要支援者が介護保険から新しい総合事業へ移行する。職員はもとより、住民への制度理解を徹底し、新たな支え合いの仕組み（新たな支え合いファンド等を活用した有償サービスの整備等）を検討する。また、専門職として専門技術、認知症や暮らしを支える視点等技術向上を行い、サービスの重度化へシフトを図る。

○福祉魅力化

平成 27 年度に開始した福祉魅力化プロジェクトを継続し、海士町の福祉が魅力的になるために、職員一人ひとりがマイプロジェクトをもち、階層別の職員研修を充実する。海士町の福祉専門職者として専門性を高めるために、介護技術や相談業務、福祉用具の理解等を研修し、常にフィードバック（振り返り）を行うとともに、サービスのモニタリング（評価）を全職員で行う。また、さまざまな交流により暮らしを見つめる視野を広げる。

○地域福祉活動計画

第 3 期地域福祉活動計画「生き生きと死ねる島」の 2 年目である平成 28 年度は生涯現役の島として、医療・福祉・保健の連携はもとより、さらなる多業種連携を図る。（多業種）×福祉で福祉の魅力化を推進し、多業種が講師となる「海士町社会福祉協議会版夢ゼミ」を年 4 回開催する。また、農業と福祉が連携し支援が必要な状態になっても、菜園山（畑）に通うことのできる支え合いの仕組みを作る。

○福祉学習

福祉学習は 2 つの柱で行う。1 つは島民に対する福祉学習。今までも小中高校の成長段階に合わせた福祉学習を展開してきたが、平成 28 年度は各学校へ福祉学習のプレゼンを行い、学校と学習の視点を共有した上で、細分化した福祉学習を展開する。地域住民に対しては、各地区で認知症の座談会（勉強会）を行う。もうひとつの柱は、島外の学生や視察の受け入れである。島外者に海士町の福祉の魅力を体験してもらうことで、海士町への移住につなげ福祉人材を確保する。そのために地域おこし協力隊を福祉人材確保コーディネーターとして配置し、様々な情報発信や調整を行う。

○障がい者福祉

障がい者雇用の中間施設として、様々な就労スタイルを提供し、海士町の企業につなげる。平成 28 年 4 月より障害者差別解消法、障がい者の雇用の促進等に関する法律が施行される。制度理解を徹底し、住民や関係企業等への周知を図る。また、町民の障がい者理解のために「あいサポーター研修」を開催する。

○保健センター

保健センターは開所から 20 年が経ち老朽化が進んでいる。「ひまわり」の愛称で親しまれている交流の場を行政と協議しながら継続して運営する。また、新たな視点を持ち（認知症）カフェの開設など、多様な人たちの交流の場となるよう検討する。

○社協組織の円滑な運営

平成 27 年度までのスローガンであった「共力して楽しい組織」を踏襲し、部署を超えた協力体制と様々な共有を行い、チーム海士町社会福祉協議会として運営を行う。また、平成 28 年度から法人運営部、施設運営部、総合相談部と 3 つの部と管理者（部長）を設置し組織再編することで、統制のとれた組織運営を目指す。さらに、平成 29 年度に施行される改正社会福祉法を熟知し、定款変更や役員体制の検討を行う。

各部門の事業重点項目

法人運営部門

○法人運営部門

- ・あま社協ニュース及びホームページによる広報の充実を図る
- ・社会福祉法の改正に伴う定款変更等の対応を行う
- ・福祉人材確保のコーディネートを行う

○地域福祉部門

- ・常に地域に入り「歩く、見る、聞く、考える」で地域を学ぶ
- ・集落支援員と連携し、生涯現役の地域づくりを行う（モデル地区 保々見）
- ・新たな支え合いファンドを活用し、有償ボランティアサービスを検討する
- ・民生児童委員の改選にともなう業務の引継ぎ等を円滑に行う
- ・福祉学習の推進（総合方針）

○訪問事業部門

- ・ターミナルケアや認知症ケアのスキルアップを始め、専門職としてコミュニケーション能力の向上を図る
- ・現場実習等を受け入れ、訪問介護員（介護福祉士）の養成を行う
- ・訪問介護・居宅介護として地域の声を聞き、より良い暮らしの実現を目指す

施設運営部門

○通所介護部門

- ・介護技術を向上させ、専門職として住民の手本になるような関わりを行う
- ・職員一人ひとりの気づきと資質向上の意識を高め、「やりたい」から「実行」へ移す
- ・認知症に対する知識を高め、利用者のみならず住民に対して認知症ケアの啓発を行う
- ・地元食材を積極的に利用し、農福連携等でできた食材を利用する

○福祉用具貸与部門

- ・介護ロボット等の最新の福祉機器等の情報を取り寄せ、住民へ情報を発信する
- ・専門職として、オムツや介護機器が説明できるよう研鑽を積む

○保健センター部門

- ・行政と連携し、住民の交流の場として整備を行う
- ・福祉避難所として準備を行い、災害時に備える

相談支援部門

○居宅介護支援部門

- ・地域包括ケアシステムの充実を目指したチームをつくる
- ・ケアプランの点検を行い、海士町唯一の居宅介護支援事業所として個々のスキルを高める
- ・住民が地域で安心して暮らせる仕組み（方法）を見出す

○日常生活自立支援部門

- ・住民が安心できる総合相談を行う
- ・包摂会議を充実させ、地域の生活困難者に対する支援を行う
- ・制度理解を深め、住民へ周知するとともに、柔軟な相談に応じる

○生活支援ハウス部門

- ・安心と楽しみを目指した居住環境（畑会議等）づくりを行う
- ・入居者理解のもと、おもてなしから自立支援へ対応をシフトする
- ・居住の帳票を作成し、連絡会議等で誰もが共有できる仕組みをつくる
- ・家族会の設置を見据え、身元引受人との連携を強化する

平成 28 年度 海士町社会福祉協議会 主な行事予定

- 4 月 隠岐老研理事会(7 日)海士町社会福祉協議会夢ゼミ漁業×福祉(19 日)
- 5 月 監査会 役員会 理事会 評議員会
- 6 月 理事会役員改選(1 日) 民生児童委員調査研修(9 日～)実務者養成講習(～8 月)
認知症事業所開設者研修 夢ゼミ第 2 回
- 7 月 ぼけよけ神社大祭(23 日)サマーボランティアスクール(27・28 日)
- 8 月 経営セミナー(2 日)社会福祉法人モデル定款準則
- 9 月 おはぎ配りボランティア
- 10 月 健康福祉フェア 夢ゼミ第 3 回 あったか交流会(デイサービス)
- 11 月 ボランティア祭り(3 日)愛ランダー(東京)
- 12 月 民生児童委員改選 役員会 理事会 評議員会
- 1 月 夢ゼミ第 4 回
- 2 月 地域福祉発表会
- 3 月 役員会 理事会 評議員会 牡丹餅配りボランティア